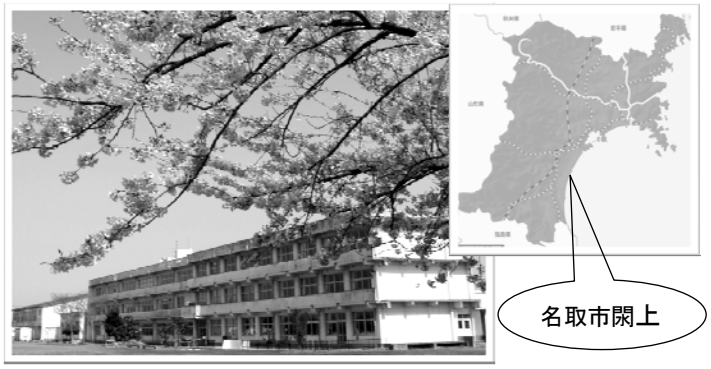
生徒会が中心となった環境整備活動

～ゆりりん整備作業等を通して～

所　属：宮城県名取市立閖上中学校
発表者：整備委員会　○佐々木和海○相原碧人

１　はじめに



私たちの通っている閖上中学校は仙台市の南、名取市のいちばん海に近い所にあります。近くには赤貝で有名な閖上漁港があります。全校生徒１５６名の小さな学校ですが、生徒会を中心にあいさつ運動を盛んに行っており、来校される方々からは「立派にあいさつができる生徒さんたちですね」とおほめの言葉をいただきます。

ここでは、私たち生徒会の整備委員会が中心となって行っている環境整備活動「ゆりりん整備・海岸清掃・漂流物調査」への取り組みについて発表します。

２　活動への取り組みの背景と経過

私たちの学校では昭和５１年、ふるさと教育の一環として、それまで行ってきた閖上漁港一帯での全校写生会に加え、全校生徒による海岸清掃活動が始まりました。その後、平成１６年「環境学習林創造モデル事業」が始まりました。この事業は仙台地方振興事務所林業振興部からの協力要請を受けて『閖上サイクルスポーツセンターわきの火災で焼失したままになっている保安林を官民一体となり再生整備し、環境学習の場を提供する』ことを目的とした環境学習林の整備作業です。この環境学習林を当時の小学生で現在中学生になっている菅井悠二君という私たちの同級生が「ゆりりん」と名付けました。現在では「ゆりりん整備活動」も「ゆりりん」と呼び、生徒たちに親しまれています。平成１８年には宮城海上保安部より『海岸・海浜漂着ゴミ調査』などを行う「海上保安協力校」に指定されました。現在は、環境整備活動としてゆりりん整備作業、海岸清掃、漂流物調査を同時に行っています。この間『海岸の清掃活動を永年にわたり実施するとともに、海岸松林再生のための植林など地域の環境整備へ貢献した学校』として自然環境功労者表彰を環境大臣から受けたことをはじめ、宮城県知事や全国海岸協会、日本善行会などから数々の表彰を受けています。

ここで、環境学習林の整備作業についてもう少し詳しくお話します。この活動は学校と地域が一体となった活動であり、私たちの学校と近隣の２つの小学校とそれぞれのＰＴＡ、閖上地区町内会、ゆりあげ港朝市協同組合などの団体の協力で進められました。環境学習林創造モデル事業は２年間の指定で終了しましたが、事業の継承を目的として平成１８年に閖上青少年健全育成会などが加わり「ゆりりん愛護会」がつくられ、新たな活動を展開し現在も継続されています。「ゆりりん愛護会」の皆さんには、私たちの学校でのこの環境整備活動に協力いただいています。また、「ゆりりん愛護会」主催の整備作業が年に４回行われています。

ゆりりん整備作業の協力団体

- 名取市立閖上小学校，ＰＴＡ
- 名取市立下増田小学校，ＰＴＡ
- 宮城県農業高等学校
- 閖上地区町内会
- 閖上青少年健全育成会
- 閖上地区婦人会
- 老人クラブ
- ゆりあげ港朝市協同組合
- ＮＰＯ松林まもり隊
- 名取ハマボウフウの会
- 名取市教育委員会
- 名取市農政課
- 宮城県仙台教育事務所

３　活動への取り組みの概要

このゆりりん整備作業を始めとする閖上海岸での環境整備活動は、生徒会の整備委員会が企画・運営の中心となり年１回行っています。

活動のねらいは次のとおりです。

- 美しい郷土の自然を守り、郷土を愛する心を育てる
- 地域社会に奉仕する心を育てる
- 勤労の喜びを体得させ、進んで奉仕活動に取り組む意欲を育てる
- 縦割りの集団で活動することにより、役割分担の大切さと協力する心を育てる

活動の内容は毎年少しの違いはありますが、昨年の活動内容は次のとおりです。

- ゆりりん整備作業

　ゆりりん周辺の防砂林の落ち葉を熊手または手を使って集めて防砂林の整備をする。その後、ゆりりんに植樹した木のまわりの除草をして、そこに集めた落ち葉を敷く。これは植樹した木の根もとの地面の乾燥を防ぐためです。すべての植樹のまわりに敷きつめ終わったら残った落ち葉は燃えるゴミ袋に入れ、集積場に運ぶ。

・海岸清掃

閖上海岸で班ごとに区域を決めてゴミを拾い、レジ袋など自分で準備したビニール袋に入れる。袋がいっぱいになったら班ごとに準備された燃えるゴミ袋、燃えないゴミ袋に分別しゴミを入れる。これを繰り返し、最後に燃えるゴミ袋、燃えないゴミ袋は集積場に運ぶ。大きいゴミは直接集積場に運ぶ。

・漂流物調査

波打ち際の指定された範囲を班に分かれ、漂流物を拾いながら漂流物の種類を調査、記録する。漂流物は分別して燃えるゴミ袋、燃えないゴミ袋に入れ、集積場に運ぶ。

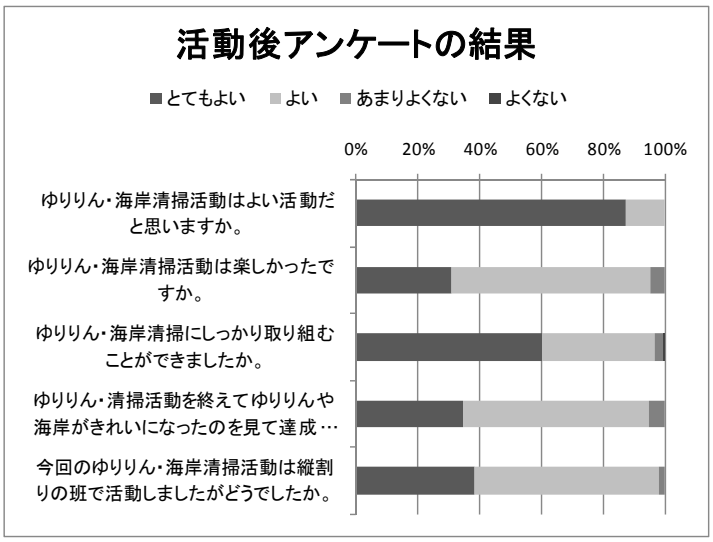
実施にあたっての工夫していることは次のとおりです。

・生徒中心の活動にするために生徒会の整備委員会が企画・運営の中心としていること
・役割分担の大切さと協力する心を育てるために１年生から３年生までの縦割り集団での活動を取り入れたこと
・生徒の活動意欲を高めるために求人票により３つの環境整備活動の中から生徒自身が選択すること

整備委員会の活動は次のようなことをしています。

・ゆりりん愛護会の方、先生と活動内容の打合せをする
・各学級で活動内容の説明をする
・求人票により活動の希望調査を行い、班編成をする。班には整備委員が１人ずつ入る
・熊手やごみ袋など活動に必要な道具の準備 をする
・開会式、閉会式の司会進行を行う
・当日の活動の中で班ごとの活動についての説明をする
・活動終了後の班ごとの反省会の司会進行をする
・すべての活動のあとに後片付けをする

４　成果と今後の課題



活動後のアンケート調査の結果をご覧ください。「ゆりりん活動・海岸清掃・漂流物調査はよい活動だと思いますか」の質問に対してはすべての生徒が「とてもよい」「よい」と答えました。「ゆりりん活動・海岸清掃・漂流物調査は楽しかったですか」「活動にしっかり取り組むことができましたか」「活動を終えてゆりりんや海岸がきれいになったのを見て達成感はありましたか」の質問に対しても良好な回答が９０％以上でした。このことから環境整備活動に多くの生徒がしっかり取り組み、しかも楽しく活動することができ、達成感を得ることができたのだと考えられます。さらにこの環境整備活動はよいものであるとすべての生徒が思っていることから今回の活動のねらい「美しい郷土の自然を守り、郷土を愛する心を育てる」「地域社会に奉仕する心を育てる」「勤労の喜びを体得させ、進んで奉仕活動に取り組む意欲を育てる」は達成できたのではないかと思います。また、縦割り活動に対する質問の回答も良好な結果であり「他学年の生徒と協力できた」「話をしたことがなかった他学年の人と話ができてよかった」「３年生を中心に協力できた」などの意見があり、「縦割りの集団で活動することにより、役割分担の大切さと協力する心を育てる」というねらいも達成できたのだと思います。さらに最近では、年４回行われているゆりりん愛護会主催のゆりりん整備作業へ参加生徒が増えてきていることから、生徒の環境整備への意識や意欲が高まってきていることが成果としてあげられます。

ただ、学校でのこの環境整備活動が年１回だけであるので、活動の意欲や達成感、地域の方々とのつながりをさらに高めるには活動の回数を増やしていくことが必要であると思います。

これで私たちの学校での生徒会の整備委員会が中心となって行っている環境整備活動、「ゆりりん整備・海岸清掃・漂流物調査」への取り組みについての発表を終わります。